

令和8年度入学 一般選抜後期日程 理科（化学） 講評

第1問

【出題のねらい】

水の電離と pH に関する問題である。基本的な用語や、水のイオン積、身の回りの物質の pH について理解しているかを問うた。

【講評】

用語や水のイオン積の値、強酸・弱酸の名称の正答率は高かった。一方で、実験例をもとにした pH の計算については苦手意識を持つ受験者が多い様子であった。

なお、第1問を含むすべての大問について「計算問題においては、途中の計算過程も含めて解答すること。」という指示が冒頭にあるが、最終の答えだけ記載している事例が散見された。

第2問

【出題のねらい】

酸素の化合物に関する問題である。基本的な用語や、酸化物の化学反応、オキシ酸の性質を理解しているかを問うた。

【講評】

用語やオキシ酸の性質に関する問いへの正答率は高かった。一方で、酸化物の化学反応式を記述させる問いの正答率は低かった。特にアルミニウムの酸化物と水酸化ナトリウムの化学反応では水が関係するということを理解していない解答が大多数であった。教科書を中心に学習を進めてほしい。

第3問

【出題のねらい】

芳香族のスルホン化実験に関する問題である。基本的な化学反応や実験操作の内容を把握できているかを問うた。

【講評】

基本的な部分の正答率は高かった。ベンゼンスルホン酸の名称や構造式については概ね理解されていた。一方で、ベンゼン誘導体のスルホン化実験については、多くの受験者にと

って初見であったと推察される。初めて見る問題だとしても、丁寧に読み進めることで十分に対応できる。既知の知識を使いながら、一つひとつ確認しつつ解答してほしい。

第4問

【出題のねらい】

燃焼を中心とした反応にともなうエンタルピー変化に関する問題である。化学反応式とエンタルピー変化の関係に対する理解度を問うた。

【講評】

全体的に正答率は高かったものの、反応式の係数、エンタルピーの符号、計算において基礎的なミスが散見された。正しく理解をした上で、注意深く解答できるように学習を進めてほしい。